

第7回外洋加盟団体長会議 議事録

日時：平成29年9月30日（土）13:20～17:05

場所：鹿児島県 霧島ホテル1階会議室

出席者：（理事）

植松眞副会長、坂谷定生常務、菊池邦仁、宇都光伸、大島茂樹、平松隆、平井昭光、中澤信夫

（加盟団体）

津軽海峡副会長 石川彰、いわき会長（理事兼）菊池邦仁、東京湾会長 足立利男、東京湾事務局長 望月規矩雄、三崎会長 新田肇、

三崎事務局長 中里英一、三浦会長 尾山純一、三浦事務局長 関根照久、湘南会長（理事兼）平井昭光、湘南副会長 作田智恵子、東海会長（理事兼）坂谷定生、近畿北陸事務局長 守本孝造、内海会長 妹尾達樹、

内海事務局長代理 北中育子、西内海副会長 金井寿雄、

南九州会長（理事兼）宇都光伸、南九州事務局長 市来孝夫、

玄海会長代理（福岡ヨットクラブ会長） 沼田浩行、

玄海代理（福岡ヨットクラブ副会長） 大石昌弘

長崎県セーリング連盟副会長 塩脇傳英、

（委員会）

外洋計測委員会委員長 吉田豊、ルール委員会外洋小委員長 大村雅一、

キールボート強化委員長（理事兼）中澤信夫、

キールボート強化委員 加藤文弥

（事務局）

外洋常任委員会事務局 鈴木保夫

J S A F 事務局次長 寺澤寿一

（オブザーバー）

南九州 剥岩政次、坂元善行、上山教夫、石川国彦、辻順一、田原達也、

田中一平

（順不同、敬称略） 合計36名

1. 開会挨拶

植松副会長：第7回の団体長会議を始めます。

実のある会議になるよう皆さん宜しくお願いします。

坂谷常務：それでは議事進行をしますので宜しくお願いします。議事録署名人は、大島理事、外洋三崎の新田会長にお願いします。

2. 議事

1) 外洋艇推進グループ内規について

坂谷常務：現在、決裁権は団体長と理事である。

責任問題を考えて外洋専門委員長は外していたが、4年目に入り問題がないと考え、改定して各委員長にも決裁権者として入って頂くことにしたい。

第5条の会議の開催時期は、9月と1月に固定する。

第7条の議決権は出席の理事、団体長、外洋専門委員長及び代理人も含めることにする。

第11条の常任委員会の議決は、出席者として外洋専門委員長にも入って頂くので、出席理事から出席者に変える。

第13条はワーキンググループが協議、検討した内容については尊重すべきと考え、新たに条項を追加した。ここで言うグループとは外洋推進艇グループのことである。

よって、以降13条が14条になり、14条が15条となる。

これについて承認を取りたい。賛同の方は拍手をお願いします。

→出席者全員の賛同の拍手を持って承認された。

2) 艇登録・会員管理システム追加開発内容と費用及び負担方法の確認について

坂谷：以前協議してあるが、説明を鈴木事務局長にお願いします。

鈴木：追加開発費として、検索結果のCSV出力として30万円、艇登録証のPDF生成、ダウンロードで16万円、艇管理機能20万円、艇データのクリーニング8万円合計で74万円の見積りとなっている。

坂谷：このうち、JSAF本体が24万円を負担し、残りの50万円を外洋艇推進グループが負担することとし、その50万円の内、外洋艇推進グループの会計で20万円残りの30万円を、外洋東京湾、外洋三崎、外洋三浦、外洋湘南、外洋東海、外洋内海の6団体が5万円ずつ、負担することを前回提案し、ほぼ了解を得たと考えているが、本日確認し確定したい。支払い期日は今年度末までとなる。

坂谷常務理事より確認をしたところ、負担頂く6加盟団体が了承したので、提案内容は確定した。

尾山：決済するのに時間がかかるので、請求書を早く出してもらいたい。

坂谷：請求書は早く出すようにする。

3) オリンピック応援フラッグリレーに係る経過と今後の進め方について

坂谷常務：大村さんから説明してもらおうがその前に少し説明する。資料3の3枚目のルート図で示すように、現在は小笠原からいわき、仙台、そして函館、青函レースで青森へ、そして再び函館に帰って、それから室蘭に行き止まっている。

図中の点線は 2018 年の予定で、沖縄から蒲郡に行き、五ヶ所湾に運びパールレースで江ノ島まで運びたい。この部分は 2020 年という意見もあるが、まだ絵の書けていない部分を決めて 2020 年のオリンピック前に江ノ島に入りたい。

九州一周など、ホームページなどで募集してクルージングで運ぶ等、事務局で相談して決めたい。

大村：フラッグと横断幕は 2 つ用意してある。

横断幕は船に掲げられるようになっており、フラッグにはサインをしてもらう。

オリンピックのみでなく、セーリングの PR のチャンスにしてもらいたい。

3 つのルート案を考えたので、地域ごとに提案してもらいたい。

場合によっては陸でも良い。

坂谷常務：何方か提案はないか？

金井：11 月 4、5 日に、呉から愛媛県の北条までの瀬戸内海横断レースを行うので利用できればと考える。

坂谷常務：その先はどこまでか？

金井：中島レースがあるが考えたい。

坂谷常務：フラッグリレーのワーキンググループのメンバーを大村さん、菊池さん、石川さんをお願いするので、このワーキンググループに申し入れして欲しい。

九州は如何か？

宇都：九州では海の駅伝をやろうとしているので、それができれば利用したい。

坂谷常務：はじめに申し上げなければならなかったが、後の議題に関係するが、本日外洋玄海の代理で福岡ヨットクラブの大石さんと沼田さんが出席されているので紹介する。

沼田：玄海ヨットクラブが解散することに関連し、外洋玄海の取り扱いについて相談のため、外洋玄海会長の代理で来た。宜しくお願ひしたい。

4) 本年度の外洋レース結果について

(小笠原レース、全日本ミドル、パール、ジャパンカップ)

新田：小笠原レースを 5 月に行った。

小笠原復帰 50 周年記念イベントして開催した。

14 艇のエントリーがあり、12 艇が出場し完走した。

30ft の艇もタイムリミットにかからずにフィニッシュした。

今後も関東 4 団体と協議しながら続けたい。

大島：全日本ミドルボートレースが 7 月に 20 艇の参加で開催された。

風に恵まれ、予定の 7 レースが全て行われた。

平井：パールレースは今年で 58 回を迎え、もう少しで 60 回となる。

48 艇が参加した。

台風が近づいていたために艇長会議で意見が出た。

コース短縮の提案があったが、予定通りのコースで行った。

艇長会議において、きちんと議論して決めたことは良かったと思う。

平松：夏の込み合うお盆の時期であったので、先着 11 艇で受付を開始したところ、11 艇が申し込んだ。

風がなく、インショアレースを 8 レース予定していたが、7 レースしかできなかった。ショートオフショアは、50 マイルから 48 マイルに短縮して 2 艇がフィニッシュしたが、他の艇はフィニッシュできなかった。

3 年経ったので、今後どうするのかをジャパンカップワーキンググループで検討している。

5) JSAF 理事定数の改定及び理事選挙について

大村：事務局長の立場で説明する。

分かりやすいように資料を作成したのでそれで説明する。

表の右が現行である。理事が 27 名であったが、昨年と今年に定款の変更があり、その結果 32 名となった。

選挙理事が 8 人から 11 人となり、その内 3 名は女性枠となった。

委員会推薦理事が新たにできて 2 名となった。内訳はアスリート委員会から 1 名、障害者委員会から 1 名である。

選出の日程は今後決まるが、3 月までに内定し 6 月の評議員会で決定する。

1 月 20 日頃に選挙理事が立候補し 2 月に選挙となる。

今年度は評議員の改選はない。

坂谷常務：女性の方には是非立候補して頂きたい。

植松副会長：外洋の選挙理事は 3 人プラス女性 1 人を出してもらいたい。

皆さん帰って議論して頂きたい。他は水域理事と会長推薦理事である。

特に関西地区と九州地区に宜しくお願ひしたい。

私は 7 年経ったので後進に道を譲りたい。

坂谷常務：私も次回は立候補しない、すなわち常務理事を退任したいと考えている。

選挙理事は現在平松理事と中澤理事の 2 人である。他に是非立候補してもらいたい。宜しくお願ひする。

6) ジャパンカップにおける 2018 年以降の開催方針等について

坂谷常務：資料の改正案の通りに変更したい。

順番に行くと関東が 2020 年のオリンピックと重なる。

ワーキンググループで決めた提案は、3 ヶ年は東海水域で開催する。

今後は地元団体だけでなく、全外洋加盟団体が協力するよう、お願ひしたい。

時期は今まで8月のお盆の時期であったので、10月か11月に設定したい。

現状の全艇同時スタートだといくつかの艇団に分かれてしまい、フィニッシュのタイムに大きな差が出るので、クラスごとにスタートさせ、それぞれにジャパンカップを与えるという考え方。よってクラスの数だけ優勝者が出ることになる。

参加資格はIRC エンドース証書所有艇から、IRC 証書所有艇にして参加艇を増やしたい。

カテゴリーは4に固定したい。

コース短縮のポイントを作り、日没までにフィニッシュするようにする。

参加艇は8月までに決定する。

中里：クラス分けは？ スピードボートはどうするのか？

植松副会長：大まかなクラスは2つ、TCCで切るが場合によっては増える。

将来、ジャパンカップウィークにして艇数を増やしたい。

基本的には全長でA・Bに分ける。

中里：クラスのミニマムの艇数は？

植松副会長：基本は5艇とする。

平井：関東で議論したが、ジャパンカップウィークに賛成。

ジャパンカップは一つのマリーナで行っているが、関東の場合マリーナを数箇所にする、インスペクションは大変だが参加艇は増えると思うがどうか。

植松副会長：ジャパンカップの敷居を低くしたい、J24が入っても良いと思う。

日本では24艇が限界ではないかと思う。

平井：ウィークにするのであれば、クラスのスタートをずらしても良いのではないか？

植松副会長：クラスによっては距離を変えても良いと思う。

平松：8レースを4日では無理ではないか？

植松副会長：期間は4日間が適当との意見があった。

平松：そうするとジャパンカップではなく、別の名前のほうが良いのでは。

植松副会長：それでも良いと思う。個々で意見をもらいたい。

1月の団体長会議までに決めたい。

坂谷常務：ワーキンググループで決めるので尊重してもらいたい。

日程が長くなると大変なので、全国から来て協力してもらいたい。

平井：ジャパンカップは名前と伝統は一つと思っていたので、「ジャパンカップ」が一番早い艇にあげたい。

植松副会長：A・Bクラスにカップをあげても良いと思う。

尾山：全日本外洋のレースで短いのはおかしいのでは？という声を聞く。

それに対してどう考えるか。

植松副会長：私も同感だが現実には参加艇が減る。

インショアに限定したほうが、参加艇が増えると思う。

新田：プレーヤーから考えると、やはり敷居が高いと思う。

アナウンスは早めにして欲しい。

坂谷常務：沖縄、小笠原、パールの総合にジャパンカップをあげるという考え方もある。

関根：ジャパンカップだけにして、「外洋」を外したらどうか？

吉田：運営が大変なので JSAF の中にジャパンカップ運営委員会を作ったらどうか。

勉強にもなるし、人材の育成も必要であるので提案したい。

坂谷：JSAF の国体委員会のような組織だが、吉田さんにメンバー表を作成してほしい。

吉田：外洋加盟団体が賛成して人を出してもらえることが前提となる。

坂谷常務：この案に皆さんは賛同できるか？

新田：三崎は出す。

妹尾：内海や東海は良いと思うが他は距離があるので調整が必要と思う。

平井：湘南は大丈夫と思う。

作田：スタッフの日当等の費用の配慮は必要と思う。

植松副会長：受益者負担が原則である。実績では費用はほぼ 360 万円位と思う。

足立：総論は賛成であるが、受益者負担がはっきりしたので協力したいが、現実的には不明である。

坂谷常務：方向性はほとんど賛成なので、その方向で進めたい。JSAF の組織の中に正式に名称を出すとなると理事会に諮る必要があるので時間がかかるが進めるとし、次回のジャパンカップに向けてはその方向性を持って考えることとしたい。

7) ライフジャケット着用義務化と JSAF の対応について

大村：平成 30 年 2 月 1 日より、全ての乗船者に桜マーク付きのライフジャケット着用が義務となる。

現在は船長のみであるが、平成 30 年 2 月 1 日より全員となる。

JSAF としては、「ヨットにおいては着用義務そのものに反対」を表明した。

桜マークの付いていない ISO 等の世界規格のジャケットでも可とするように要求したが、国交省は桜マーク以外の規格品をライフジャケットして認めることは受け付けなかった。

そこで、レースでは世界規格と異なるものを用いると成績に左右するという事等を理由に挙げ、ヨットにおいて桜マークライフジャケット着用義務の適用除外を要求した。

その結果、JSAF が安全にかかわる責任を持って対応するならば、安全対策を行っているレース中及び安全対策が取られているそのレースのための練習中は適用除外が認められた。

国交省の通達では、国際または国内で統一された安全基準が整備されていること。

安全基準の遵守が協議の参加の条件になっていること。
国内において重大な事故が多数発生していないこと、等の条件を満たすことになっている。

以上を配布してある資料に分かりやすいように表に纏めた。

加盟団体としては、艇登録を広げるチャンスと考える。

対象となるのは、JSAFの会員であるのが大前提である。

作田：レースの練習とは何を指すのか？ 1艇でもOKか？

大村：クルージング、釣りはだめだが、スピンの練習などは入る。

範囲はファジーである。

坂谷常務：オープンレースでの会員以外は対象から外れる。

新田：会員に正しく伝えて、乱用されないように周知して欲しい。

中里：会員に配るリーフレットが欲しい。

大村：各団体に既に送っている。

坂谷常務：各団体においてはきちんと対応して欲しい

塩脇：ライジャケ着用適用除外の対象の条件はレース中か？

大村：(RRS上のレース中とは異なり)ハーバーからレース海面、そしてハーバーまではレース中との解釈である。

8) オリンピックショーケースイベントについて

植松副会長：配布した文書は加盟団体と特別加盟団体に配ったものである。

パリのオリンピックから、種目が白紙となりオフショアを入れたいとの意向も踏まえて、東京オリンピックのショーケースイベントとしてオフショアレースの提案が、ワールドセイリングからIOCにあった。

JSAFにはワールドセイリングから、やりたいとの話がある。

先日、アンディー ハントと話をした。

その内容は、オフショアレースは48時間、艇は30ftのモノハル、男女ミックスのダブルハンドレース。

コースは、東京湾→三宅島→下田→江ノ島を予定。

艇はベネトウから無償貸与。

JSAF理事会で進める方向でいる。

山崎さん、鈴木一行さんを含めて打ち合わせをしている。

だいぶ前に進んで、5割まで来たと感じている。

9) 外洋玄海の近況について

坂谷常務：福岡には玄海ヨットクラブ、福岡ヨットクラブ、博多ヨットクラブがある。

玄海ヨットクラブが解散したいとの話があり、本日福岡ヨットクラブの方に来て頂い

た。現在外洋玄海の会員は約 40 名いる。

沼田：玄海ヨットクラブ、福岡ヨットクラブ、博多ヨットクラブの 3 つのクラブがあり、玄海ヨットクラブはアリランレースのみの活動になってきている。

福岡ヨットクラブのメンバーは殆ど外洋玄海のメンバーである。

玄海ヨットクラブから、「今後は福岡ヨットクラブが外洋玄海を運営してもらえないか」との話があったので今後はそうしたい。

坂谷常務：これについて副会長、坂谷、大村事務局長にお任せ頂きたい。

外洋常任委員会で判断したいが如何か？

剥岩：福岡ヨットクラブは特別加盟団体であるので、票にも影響がある。それについては如何か？

坂谷常務：それも含めて調整したいということである。

金井：外洋北九州としてやって頂きたいと考える。

坂谷常務：JSAF の規則規約も含めて常任委員会で調整させて頂きたい。

大村：外洋玄海の執行団体として福岡ヨットクラブがやるということであれば、整理が付くと考えられる。

坂谷常務：了解して頂けるか？

→出席者全員が承認した。

1 0) 専門委員会報告

・外洋計測

吉田：デュアルスコアリング、IRC 申請の推移、パールレース、合同委員会について配布資料を基に説明する。

IRC、ORC と、レーティングオフィスが 2 つあり、経費の面があるのでゆくゆくは統合して一つにしたい。

世界的には、大きく分けて IRC と ORC の 2 つが多く採用されている。

艇数は IRC が 6,000 から 6,500 程度、ORC が約 10,000 艇である。

ORC は 2015 年より、JSAF で管理している。

パールレースでは ORC の参加が 5 艇で 10 艇に満たなかったため、成立しなかったが参考に成績を出した。

レースを面白くするために、デュアルスコアリングを推奨している。

PCS の計算ソフトを国内で開発しているので、希望があれば加盟団体に配布する。

デュアルスコアリング及び推移については資料の通りである。

中里：ORC のデュアルスコアリングは IRC 取得が前提ですよね。

吉田：その通りです。

来年 2 月 3 日に、いわきで合同委員会を開催する。

既に資料は加盟団体に配布している。加盟団体におかれては、是非参加してもらいた

い。

菊池：いわきは 2011 年の地震で壊滅的な状態になった。

会場の小名浜オーシャンホテルはサンマリーナに近いので、参加してサンマリーナ復興にエールを送ってもらいたい。

12 月 22 日までに申し込んで頂ければ、安い料金（8,000 円）で泊まれるように手配する。

中里：セミナーが重なっているの、両方に出られるようしてもらいたい。

平井：PHRF 委員会は今後の日本でも重要と考えるので、現状を教えてください。

吉田：全国の情報交換を主たる活動にしている。

作田：一人しか出せない団体に配慮してセミナーの時間割を考えて欲しい。

吉田：検討するように伝えておく。

・ルール委員会

大村：今年から抗議は、「プロテスト」の掛け声でないと有効ではない。

テクニカル委員会は、装備検査と大会計測を実施する。

直接、抗議や救済要求をすることが出来る。

公示、帆走指示書に「DP」と標記すれば、その項目は失格にかわる裁量ペナルティーの対象となる。

昨年に引き続き今年も 12 月～3 月にルール講習会を開催する。

費用は一人 500 円を払えば、後は JSAF ルール委員会が負担するので利用してもらいたい。

・省庁連絡

大村：伊豆大島西方に推薦航路が設定される。

分離直行方式ではないので、ヨットは従う必要はないが、横断するときには注意が必要。

国際 VHF のチャンネルの用途が変わる、27ch、28ch についてであるので、直接ヨットにはあまり関係がないと思う。

オリンピック、ワールドカップ等の VHF 無線は 71ch、74ch、77ch が使用される。

・安全週間

坂谷常務：安全週間の案内が加盟団体事務局に流されている。

・国際委員会

坂谷常務：国際委員長が欠席であるが、資料が配布されている。

国際会議はワールドセイリングのミッドイヤーミーティングが 5 月に開催され、大谷さんが出席した。

年次総会は大谷さん、柴沼さん、小林さん、入部さん、須藤さんが出席予定。

ORC の年次総会植松さんと小林さんが出席する。

IRC の年次総会は平井さんが出席する。

- ・キールボート委員会

中澤：2017年の活動報告として、JYMA 選抜大学対抗&U25 マッチレースの報告書を本日配布した。

ASAF キールボートカップはターコイズチームが出場の予定。

ニューヨークヨットクラブのインビテーショナルカップの成績は、サマーガールが 14 艇中 7 位となった。

1 1) その他

- ・ミドルボート界の動きについて

坂谷常務：全日本ミニトンレースではミニトン協会が運営しているように、JSF の運営規則では全日本レースについては協会が行うことが基本となっている。

全日本ミドルの代表者会議において協会を作ろうということになったので宜しくお願いしたい。

- ・第 16 回台琉友好親善国際ヨットレースの運営について

坂谷常務：広島県の越智さんからの、レースに関してのお願いの文書を配布したが、それに対する回答が裏にある。経緯は回答の通りである。

- ・メルボルン大阪ダブルハンド YR について

坂谷常務：資料の通り、お知らせのみである。

- ・保険について

坂谷常務：外洋三崎から保険に対して質問が来たので資料を配布した。

前年の実績で保険料を決めているので、今年のレースでリストにないものもあるが対象となっている。

新田：それについて文書であるか？

坂谷常務：配布した資料の「特約」の「保険料不精算特約」に明文されている。

- ・外洋内海

妹尾：外洋内海は NORC 時代から通算して来年 60 年を迎える。

来年は 60 周年の事業を行い、数々のイベントを開催するので宜しくお願いする。

内海ではオープンレースにおいて事故が多い。

安全に対し重点をおいた事業を行いたいので、各地で参考になることがあれば教えて頂きたい。

- ・沖縄東京ヨットレース

坂谷：沖縄東京ヨットレースクラブという団体が、来年の 5 月に外洋東海が行う沖縄東海レースと同時期に、「沖縄東京レース」を主催するとの情報がある。

これは外洋東海が主催する、「沖縄東海レース」とはまったく別のレースなので注意して欲しい。

金井：このレースを計画している責任者は外洋西内海の会員なので、これで迷惑をかける等の問題があれば私に言って欲しい。
責任をもって対処する。

以上。

議事録署名人 理事 大島茂樹
外洋三崎会長 新田 肇